論　説

# 全国獣医師会会長会議常設議長に就任して
## ―地方獣医師会と日本獣医師会を繋ぐ―

髙橋三男†（公益社団法人 埼玉県獣医師会会長）

昨年10月25日，全国55地方獣医師会会長出席のもとで開催された平成25年度全国獣医師会会長会議において，新たに同会議に設置された常設議長を拝命した，関東地区選出理事の埼玉県獣医師会会長 髙橋三男でございます．同副議長の三野營治郎三重県獣医師会会長ともども会員の皆様のご支援，ご協力を宜しくお願い申し上げます．

### 1　全国獣医師会会長会議の設置

全国獣医師会会長会議は，日本獣医師会の運営に関する協議並びに連絡・調整を行う常設の委員会として，定款第58条の規定に基づき理事会の決議によって設置されている．また，同会議は総会以外においては，日本獣医師会の役員と地方獣医師会の会長全てが出席し開催される唯一の合議体として大変重要な役割を担い，獣医師会組織が一体となって推進すべき重要課題について，全国の獣医師会の意志統一と相互の連携・連帯を高めるための場として期待されている．

私も埼玉県獣医師会の会長として，同会議についてはその重要性に鑑み，必ず出席させていただくとともに，必要な時には執行部への質問や意見，時には苦言や提言等もさせていただく中で，より実効性のある会議とすべく努めてきたところであるが，ややもすると日本獣医師会からの単なる伝達事項に終わることもあり，また理事会との連携不足等により，決定事項が何年もの間，実現に至らず，地域を預かる地方会の会長として，会長会議のあるべき姿と改善に向けたより良い仕組み作りを模索し続けていたところである．

### 2　藏内勇夫日本獣医師会会長の就任と常設議長・副議長の設置

日本獣医師会はその定款において，その目的は「獣医師道の高揚，獣医事の向上，獣医学術の振興・普及及び獣医師の人材の育成を図ることにより，動物に関する保健衛生の向上，動物の福祉及び愛護の増進並びに自然環境の保全に寄与し，もって人と動物が共存する豊かで健全な地域社会の形成に貢献すること」としているが，その実現を担うのは全国55の地方獣医師会であり，またその構成員である27,000人余の志を同じくする会員獣医師にある．

したがって，地方会の会長の声は，その構成員である全国の会員の代弁であり，日本獣医師会理事とはまた異なる立場において，会務の運営・推進に当たって，非常に重いものと認識している．

そのような中，この度，新たに日本獣医師会会長に就任された藏内勇夫会長は，福岡県獣医師会の会長を20年，更には日本獣医師会地区理事や副会長も長年務め，日本獣医師会はもとより地方会の実態や課題を十分熟知していることから，正に我々，地方会の会長仲間から生まれ育った日本獣医師会会長といっても過言ではない．また政治家としての長い経験から国政とのパイプも非常に太く，今後の日本獣医師会を背負って立つ新たなリーダーに相応しい会長として，私もその手腕を大いに期待しているところである．

その藏内新会長は，就任挨拶において，獣医界には多くの解決すべき問題が山積しており，いずれも短時間で解決できる単純な案件ではないが，永い政治の世界での経験も活かし問題解決に向け，日本獣医師会と地方獣医師会更には全国の獣医師が情報を共有することにより，一丸となって取り組むとともに，自らも「粉骨砕身」汗を流し，「熟慮断行」スピード感を持って対応に当たりたい，との決意を表明し，「獣医療提供体制の整備・充実を目指すキックオフ宣言」をされた．

この藏内新会長の決意表明の具現化の一つとして，全国獣医師会の意志統一と日本獣医師会との連携・連帯を一層強化するため，全国獣医師会会長会議に統括責任者として常設の議長及び副議長を置くこととし，また同会

† 連絡責任者：髙橋三男（埼玉県獣医師会）
〒330-0835　さいたま市大宮区北袋町1-340　埼玉県農業共済会館3階
☎048-645-1906　FAX 048-648-1865　E-mail : s-vma@vesta.ocn.ne.jp

議の意見が日本獣医師会の理事会に十分反映できるよう，正・副議長は日本獣医師会地区理事の互選により選任されたものが就任することとされ，昨年9月開催の平成25年度第4回理事会の場において地区理事の互選により，不肖，私が満場一致で選任され，この度，就任したところである．

### 3　開業獣医師として半世紀の経験を活かして

私は，昭和34年日本大学を卒業後，獣医師免許を取得，その後，東京都内の動物病院での研修を経て，自ら「株式会社TPC」を設立，院長として今日まで半世紀を超える55年の長きにわたり，地方の開業獣医師として診療活動に従事する傍ら，栗田武男（元 日本獣医師会副会長）並びに五十嵐幸男（同 元会長）両会長のもとで埼玉県獣医師会理事を45年，またその間，厚生委員長1期3年，更に狂犬病予防委員長1期3年，総務委員長3期9年，副会長4期12年を経て，平成11年6月，五十嵐幸男会長の後継として埼玉県獣医師会の会長に就任し，今日に至っている．

日本獣医師会においてもその間，小動物委員会の副委員長を2期4年，獣医師福祉共済事業運営委員会委員長を2期4年，更に組織財政委員会では林　良博委員長（元 東京大学副学長）のもとで副委員長を1期2年務めるとともに，現在，関東地区選出理事として5期9年，更には日本獣医師会動物感謝デー企画検討委員会委員長等にも就任させていただいている．

獣医師免許取得後，半世紀以上に亘る開業獣医師としての診療活動を通じて，社会の変化や獣医療を巡る情勢やその変遷等自らの問題，課題として真正面から見据え，また取り組んできた．この貴重な経験を活かし，「歴史に学び歴史をつくる」また「歴史は現在と過去の対話」の言葉の如く，与えられた議長という重要な職責を全うしていく所存である．

### 4　多様化・拡大する獣医師の役割

近年，小動物獣医療の技術は一段と高度化する一方，診療対象動物の拡大，更には市民の診療ニーズの多様化，また鳥インフルエンザにみられたような人と動物の共通感染症への関心の高まり，BSEに端を発した食の安全と安心，科学的には安全でも国民は安心できないという社会現象と管理獣医師制度の発足，更には，盲導犬，聴導犬等，人の器官代替動物の需要増や動物愛護と動物福祉，野生動物や学校飼育動物への対応等，今，獣医師の役割や獣医療を取り巻く情勢は，非常に複雑・多様化，多岐に亘るとともに重要となっている．

我々獣医師，獣医療の対象は動物であるが，最終的な目的は人の健康・福祉対策であり，「獣医学」と掛けて「宇宙のようなもの」と解く，その心は「その領域が爆発的に拡大している」と揶揄された獣医学者もおられたが，正にそのとおり，獣医師の役割は非常に幅広く，また奥深くなっている．

### 5　狂犬病予防体制等，特別委員会の設置と期待

非常に幅広い役割と国民の期待を背負った獣医師，また地方獣医師会も解決すべき多くの課題を抱えている．

このため，藏内新会長は会長就任早々，政治家としての太いパイプを活かし，獣医療施策の整備充実に関して国政に対し超党派で要請するほか，農林水産省や厚生労働省等に精力的な要請活動を展開する一方，就任後の第1回全国会長会議の場において，早速，当面の課題への対応として，その重要性等を考慮し，①狂犬病予防体制特別委員会，②女性獣医師支援特別委員会，③日本医師会との連携推進準備委員会の3委員会を発足させることを表明した．

私もその精力的な行動とスピード感を高く評価する一方，いずれも地域の実態を踏まえた大変重要かつタイムリーな課題であることから，その成果を大いに期待している．地方会を預かるものとして検討会への委員の派遣や検討結果を踏まえた課題解決については，自らの問題として全力で取り組む所存であるが，既に，藏内新会長は日本医師会との連携に向け，11月20日，公益社団法人日本医師会 横倉義武会長との間で「学術協力の推進に関する協定書」の調印を取り交わすとともに，女性獣医師への支援についてもその就業環境確保に向け「獣医師の就業実態調査」を開始したところである．また，特に地方獣医師会として喫緊の重要課題である狂犬病予防体制についても，現在の狂犬病予防対策を巡る状況や多くの課題を踏まえ，是非とも抜本的かつ精力的な議論とその具体的成果の実現に向け手腕を大いに発揮していただきたいと強く願うものである．

なお，狂犬病予防対策について我が埼玉県獣医師会では，行政機関による普及啓発に併せて独自でも新聞等メディアを活用した広報活動を実施するほか，指定獣医師の教育研修の必修化による技術の高位平準化，更に市町村との契約に基づく実施班の派遣による組織的，計画的集合注射の実施等，会員獣医師の協力により，円滑に推進されているが，最近の一部会員外獣医師による価格破壊的予防注射の実施行動は，今後の狂犬病予防対策のあり方として非常に危惧しているところである．そもそも狂犬病予防対策は，日頃の啓発活動や地域における診療活動と有機的に結びついた取り組みにより実効性が確保されるものであり，単なる予防注射の実施のみで完結するものではない．日本獣医師会の定めた「ガイドライン」，この作成には私も小動物委員会において参画したが，これに則した適切な取り組みにより，狂犬病予防対策への国民の理解とその実効性を確保していくことが重

要と考える．

### 6　公益法人として広く社会に貢献

この度の公益法人制度改革のもとで，埼玉県獣医師会は公益社団法人への移行を選択し認定された．検討の過程においては会員から「公益法人移行のメリットは何か」等の意見も寄せられたところである．

確かに埼玉県獣医師会としては公益社団法人移行による税制面等の目に見えるメリットは少ない．しかし，我々獣医師会組織は昭和24年の設立以来，国家資格を有する専門職獣医師が組織する公益活動を行う団体として60有余年の間活動してきた組織であり，過去の実績経過からも，また今後の活動の上でも一般社団法人を選択するという判断は無く，日本獣医師会のご指導のもと公益社団法人を選択するものとして，総会の承認を得て認定申請を行ったところであり，狂犬病予防対策や学術講習会等も含め，日頃我々が行っている活動が「不特定多数の利益の増進に寄与する公益目的事業である」として知事が認定したということは，直接目に見えるものではないが社会的にも大変意義深いものと考える．

また私は計画に位置づけられた公益目的事業の推進は当然のことではあるが，更に獣医師の資格を活かした幅広い地域活動を通じて社会に貢献する獣医師会を目指し取り組む決意である．早速その一環として昨年11月，地域で行われたイベント，古式豊かな「鷹狩り行列」の再現に鷹匠の資格を有する会員2名を派遣し「まつり」を盛り上げたところであるが，地域との結び付きを一層深め，地域の活動を支援することにより社会に貢献する獣医師会を理解していただくことも重要と考える．

我々の獣医師免許は，国から預けられているものである．我々獣医師は診療活動等の各場面において，「適切な判断を下す高度の専門家」であるとの認識は大変重要なことであるが，更に獣医師法で「著しく徳性を欠く者には免許を与えない」と規定されているとおり，「倫理観・徳育」にも優れた専門技術者でなければならない．このような者に国は獣医師免許を預けているものであり，「獣医師の資格を通じて，我が国の発展と国民のより良い生活に寄与していく」ことを期待している．公益団体の一員として，改めて獣医師免許を預かっている意義を一人一人再認識し，社会の一員として広く活動していくことを期待し，また願いたい．

### 7　幅広い分野との連携により獣医師，獣医師会の社会的地位の向上

私は獣医師として50有余年，その間，動物病院の院長として，また獣医師会の役員等として長い間，獣医師の職域において活動してきた．

また一方では動物病院の院長という立場において関係者の推薦をいただき，120万市民を擁する政令市，さいたま市の商工会議所の副会頭や県青色申告会等，税務協力団体の会長等の役職も務めさせていただいている．またその間，県PTA連合会の副会長として学校動物飼育の必要性や情操教育の一環としての生きる力，命の尊さを教育面においても力を入れてきたところである．そのようなことから，獣医師という職業や獣医療を別の観点から見る機会も多く，また異業種の方々との交流や情報交換，更には県や市町村の行政職員，議員等との太いパイプも私の目に見えない財産となっている．

本会では去る2月6日，公益社団法人への移行を記念し記念講演会と併せて交流懇談会を開催した．当日は日本獣医師会藏内勇夫新会長には「獣医師会の目指すべき方向について」，また本県には獣医科大学，またこれに付随する大学付属の動物病院もないことから，東京大学大学院教授 附属動物医療センター長の辻本　元先生に「症例と飼い主のための大学動物医療センターの活用」についてご講演をいただいたが，懇談会には知事を始め多くの国会，県・市議会議員，市町村長更に金融・経済団体の役職者等，幅広い分野から260名もの参加をいただいたところであり，会員との交流とともに獣医師会の活動への理解を深めていただけたものと思っている．

我々獣医師はともすると高度専門職業人として，その職の中に留まってしまうきらいがあるが，私はこのような恵まれた機会を与えていただいたことに感謝しつつ，多種，多様な職域の方々との交流を大事にしたいとの気持ちで日々努力している．

日頃のこれら地道な行動により，獣医師会の運営においても総会を始め，各種行事には多忙の中，知事を始め政財界等，多くの皆様にご出席をいただくことができ，大変感謝するとともに，こうした機会を通じて，獣医師，獣医師会への理解とともにその社会的地位の向上に結び付けていきたいと考えているところである．

### 8　地方獣医師会の発展を目指して

私はこの度，全国獣医師会会長会議の初代常設議長に選任された．国民意識が多様化する中，獣医師会を巡る情勢も複雑多様化し，今，地方獣医師会は多くの課題を抱え運営も大変難しいものがある．この苦難の時期，世の中を変えるのはアウトサイダー（改革者）．そういう者の声をしっかりと受け止められるかどうかに組織の活性化は掛かっているといわれている．常設議長は初めて設置された役職でもあり，今後その舵取りは大変難しいものがあると思う．

8年前，私は当時の五十嵐幸男日本獣医師会会長のもとで山根義久新会長の誕生に携わるとともに，併せて日本獣医師会の理事に就任させていただいたところであるが，日本を代表する臨床獣医師また大学教育者としての

実績をもとに，獣医学教育の改善・充実や東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故後の対応等，精力的に取り組む山根会長の姿を目の当たりに見させていただき，多くを学んできた．その間のご尽力，ご指導に改めて感謝申し上げる次第であり，この貴重な経験をもとに私も「人が地位をつくる，地位が人をつくる」の言葉の如く，常設議長の職に選任いただいた全国の地方獣医師会長の負託に応え，「声なき声」もしっかりと受け止め，「声ある声」には速やかに対応し，「熟慮・決断・実行」をモットーに，時代の潮流を見据え，地方獣医師会の思いを三野副議長とともに日本獣医師会の理事会の場に繋げていきたい．

また併せて「日本獣医師会は何をしてくれるのか」という要望のみに終わることなく，「我々地方獣医師会として何ができるのか」との思いも胸に，自ら努力すべきことは努力し，日本獣医師会並びに全国の地方獣医師会の一層の発展に向け，誠心誠意，微力ながら頑張って参る所存である．全国の地方獣医師会会長の皆様のご支援，ご協力を是非とも宜しくお願いしたい．